

絵本には

「フクフク」や「ドキドキ」がいっぱい！

わっ…！

特集

絵本の力 読みきかせの力



聞く側にも読む側にも、いいこといっぱい 子どもも大人もうれしい「読みきかせ」

絵本は一人で読むこともできますが、読んでもらうことでその素晴らしさは引き立つもの。絵本と聞いて、親が子に読んであげる温かな光景をイメージする人も多いはずですが、

子どものさまざまな力を育む「読みきかせ」体験

読みきかせは、目で絵を楽しみ、耳でも物語を味わうことができます。子どもたちは、豊かな表現に触れてたくさん言葉を感じたり、実際に体験したことのないような場所や風景をイメージしたりすることで想像力が身に付くと同時に、集中力や理解力など、幅広い力を育みます。また、人に読んでもらうことや感動を知り、保護者以外の大人との出会いや触れ合いを通じて、自己肯定感が高まるとされています。

「読みきかせ」は人と人とのつながりをつくる

良い影響があるのは、子どもたちだけではなく、家庭での読み聞かせは、子どもと同じ世界観を感じながら過ごす親子の大切なコミュニケーションの時間になります。

教育委員会のサポートを受け 全小・中学校で「読みきかせ」

連絡協議会設立当初は、活動への理解が得られないこともあったと振り返る坂下さん。それでも、設立当時から市教育委員会の後押しがあったおかげで、学校ともスムーズに連携することができたと話します。

「設立当時の佐藤勝美教育長が『読みきかせは心の栄養』だとおっしゃってください、歴代教育長が協議会の顧問を務めてくださっています。教育長が顧問としてサポートし、全小・中学校で読みきかせを行う自治体は他にはなかなかありません。絵本・おはなしには子どもを夢中にさせる力がある

「私たちは子どもとおはなしの仲立ちをしているだけ」。

子どもたちを夢中にさせる力が、絵本やおはなしにはあると坂下さん。ストーリーテリング※で子どもたちの顔を見ながら話すと、中学生の男の子が口を開けて夢中で聞いていることもあるそう。

「おはなしの世界に入り込んでしまっ、現実に戻れるのかしらと思うときもあるほどのです」。

誰かに読んでもらうことで、より物語の中に入り込むことができるだけでなく、地域の人や親子の絆が深

※語り手が物語を覚えて、自分の言葉で語る手法のこと。聞き手は、語り手の表情を見て感情を感じながら物語を聞きます

また、ボランティアによる学校などでの読みきかせは、地域のつながりを深めたり、ボランティア同士の関係構築のきっかけにもなるというメリットもあります。

取り組みを支える 縁の下での力持ち

市内では、絵本にまつわるさまざまな取り組みが行われています。中でも特徴的なのが、市内小・中学校全21校で行われる読みきかせ。保育施設や小学校での読みきかせは一般的ですが、全ての小・中学校で取り組む自治体は全国的にもまれです。

学校での読みきかせを担うのは、各読みきかせ団体で活動する200人以上のボランティア。そして市内各地の団体をとりまとめ、子どもたちの健やかで心豊かな成長のために活動するのが、小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会（以下、本文中は「連絡協議会」）です。

連絡協議会は、団体の継続的な活動のサポートやスキルアップのための研修会の開催、市立図書館と連携した読書活動のためのイベント開催など、幅広く活動しています。

まるなど、人と人をつなぐ場でもある読みきかせ。「誰かに読んでもらった声は子どもたちの記憶に残る」と坂下さんは話します。

「読みきかせ」という 根っこを育てる

「読みきかせは基本的にボランティア。読みきかせの素晴らしさや楽しさに気付いているからこそ、皆さんは活動を続けてくださっている」と坂下さん。一方で、共働きで忙しい世帯も増えてきたことで、活動が続けることが難しい団体も出てきているといいます。それでも、読みきかせが今後も続き、小林の文化として根付いてほしいと話します。

「小林に『駅伝』が根付いたのは、根っこを育てる人がいたから。読みきかせも根っこを育てていたら、小林の文化として広がっていくのではないかなと思います」。



10月19日には、読みきかせ講座を開催。連絡協議会は図書館と連携して読み手の育成も行っています

やってみよう！読みきかせQ&A～小学生篇～

参考：宮崎県立図書館『えほんのとびら 小学生低学年向け 読み聞かせはじめのいっぽ ～読み聞かせボランティア篇～』

＼やってみよう！／

Q 小学生にも読みきかせは必要ですか？

A 小学生になると一人読みができるようになりますが、まだ文字を追うことに集中しがちです。読みきかせは、目で絵をすみずみまで味わい、ストーリーに集中して、物語の世界にひたることができます。想像力がどんどん豊かになる小学生にこそ、ぜひ絵本を読んであげてください。

読む絵本に迷ったら、市立図書館へ。読みきかせにオススメの絵本を展示したコーナーや、小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会で作成した絵本のリストなどがあります。絵本選びの参考にしてください。

Q 小学生に絵本を選ぶポイントがありますか？

A 絵本によっては対象年齢が書かれているものもありますが、こだわりすぎる必要はありません。子どもたちの顔を思い浮かべながら絵本を選びましょう。



やってみよう！読みきかせQ&A～赤ちゃん篇～

参考：宮崎県立図書館『えほんのとびら 読み聞かせはじめのいっぽ 0・1・2歳』

Q 生後何カ月くらいから始めればよいですか？

A 絵をじっと見ていられる4～5カ月くらいからはじめられますが、急がず焦らず、読んであげたくなったらはじめてください。

Q どんなふうに読めばよいですか？

A ゆっくり子どもに語りかけるように読んであげましょう。大人も一緒に絵本を楽しむことが大切です。

Q 自分でページをめくって読ませてくれませんか？

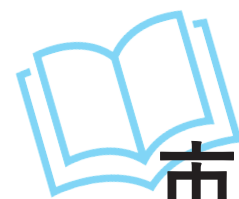
A めくることで、目の前のものが新しいものに換わることを楽しんでいます。毎日読んでいると、絵本は読んでもらうと楽しいものだと分かってきて、だんだん読めるようになります。

Q 絵本をなめたり、かじったりしてしまいます

A 絵本に興味がある証拠です。「絵本は開いて読むもの」と分かると、自然にしくくなります。

＼うーん…／





赤ちゃんから中学生まで

市内で広がる絵本にまつわる取り組み

小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会を中心に、市内では赤ちゃんから中学生までが絵本と親しめるさまざまな取り組みがあります。その一部を見てみましょう。



「読みきかせ」だけでなくお母さん同士の交流も

絵本であそぼ0・1・2

日時 毎月第2水曜 10時30分～11時20分 場所 子うさぎ文庫（〒886-0009 小林市駅南 251）



上園 ともよ 知代さん、大晴ちゃん

赤ちゃん健診でチラシをもらい、来たいと思っていました。場所見知りや人見知りするので新しい場所や人を知るいい機会になりました。読みきかせや手あそび歌をやってもらって子どもも楽しんでいたので、また参加したいと思います。

赤ちゃん健診を終えて案内されてきたお母さんに、ブックスタートアドバイザーが語りかけます。ブックスタートでは、アドバイザーのアドバイスや赤ちゃんへの読みきかせの反応を見ながら、5冊ある絵本の中から2冊を選ぶことができます。

「いろいろな絵本と出会えた」「絵本を買うきっかけになった」という声から、絵本を受けとって「子育てに不安を抱えていたが、社会から取り残されていない、一人じゃないと感じることができた」という声も。アドバイザーの温かい声掛けで「長時間の健診で疲れていたが、ホッとできた」と話すお母さんもあるなど、赤ちゃんにとってもお母さんにとっても優しい取り組みになっています。

0 ヲ2歳児が対象の「絵本であそぼ0・1・2」は、小林駅南に位置する絵本館「子うさぎ文庫」で毎月第2水曜に開催しています。

9月11日は、0歳から楽しめる定番絵本「いないいないばあ」（松谷みよ子ぶん 瀬川康男え、童心社）などの読みきかせのほか、手あそび、歌あそびなどが行われました。

また、参加したお母さん同士の交流も。「この1カ月で首が据わりました」「最初の頃は笑わずに離れたところから見ているのに、今はとても活動的になりました」など子どもの成長や変化の報告だけでなく、他ではなかなか相談できない悩みを共有する場にもなっています。

あ たたかい絵本のひとときを、すべての赤ちゃんに。

「ブックスタート」は、0歳児健診などの機会に赤ちゃんへ絵本を開く「体験」と「絵本」をプレゼントする事業。小林市では平成20年度から取り組んでいます。

赤ちゃん絵本が出会い親子の絆が深まる機会に

「この中で持っている絵本はありますか」「この絵本を読んでみましょうか」。

声から、絵本を受けとって「子育てに不安を抱えていたが、社会から取り残されていない、一人じゃないと感じることができた」という声も。アドバイザーの温かい声掛けで「長時間の健診で疲れていたが、ホッとできた」と話すお母さんもあるなど、赤ちゃんにとってもお母さんにとっても優しい取り組みになっています。

「いろいろな絵本と出会えた」「絵本を買うきっかけになった」という

これなんだろう？
タイヤかな それとも…
10月12日に市立図書館で行われた「おはなし会」。この日は、ページをめくるたびに不思議なシルエットが登場する「くだものなんだ」（きうちかつ 作・絵、福音館書店）の読み聞かせからスタート。子どもたちにクイズを出しながら読み進めていきます。他にも、季節にあわせたハロウィンのまつわる絵本など計3冊の読み聞かせが行われました。

「おはなし会」は市立図書館本館で毎週土曜、11時と14時の開催で、読み聞かせだけでなく手あそびなども行われます。須木分館・野尻分館では希望する人へ行っています。



栗原 絹代さん

絵本を借りに図書館にきたところに声を掛けられて参加しました。最近は図書館に来る機会も減っていたのですが、これを機にまた来たいと思います。（絹代さん）

見たことのない絵本や自分では選ばない絵本を読んでもらって楽しかったです。（心花さん）

市立図書館本館
毎週土曜 ①11時、②14時
市立図書館須木分館・野尻分館
希望する人に行きます。図書館職員に声を掛けてください



読んでもらうよろこびを子どもたちへ

おはなし会

今年度選べる絵本は

厳選されたこの5冊



令和6年度にプレゼントする絵本のラインナップはコチラ。昔から読み継がれる絵本や親子で一緒に楽しめる絵本まで選書委員会が厳選した絵本で、希望する2冊をもらうことができます。



絵本を読んであげたときに、子どものリアクションが楽しそうなものを選びました。どんな絵本がいいかなかなか分からないので、おススメ5冊から選ぶことができて助かりました。

宮園 菜々美さん
梨杏ちゃん

選んだ絵本は、欲しかった絵本だったのでうれしいです。自分でも絵本を買って読み聞かせをしているので、今日もらった絵本も持って帰って読んであげたいと思います。

今奈良 奈未さん
歩乃華ちゃん





西小林小・中学校の 取り組み

大人に読んでもらっただけじゃない 小・中学生も「読みきかせ」に挑戦!!

西小林小学校では、家庭での読みきかせにつなげてもらおうと、参観日にあわせた家庭教育学級で保護者による自分の子どもへの読みきかせ体験会を実施。また、6年生による1年生への読みきかせや、西小林中学校と連携して中学生が小学生に読みきかせをする取り組みなど、さまざまな取り組みを行っています。



10月22日の読みきかせの様子



3月6日の読みきかせの様子



保護者や地域のボランティアによって全校で実施

市内小・中学校での「読みきかせ」



9月13日に行われた東方小学校での読みきかせ。子どもたちは夢中になって物語に耳を傾けています。

「読みきかせ」に夢中な子どもたちの姿が市内各地の小・中学校に

10月3日8時15分、南小学校1年生の教室。それまで元気一杯だった子どもたちは読みきかせ団体「たんぽぽサークル」による読みきかせが始まると、静かに声に耳を傾け始めます。

「あるひ がっこうから かえってくる」と テーブルの うえにりんごが おいてあった。
この日の一冊目の絵本は、学校から帰ってきた男の子がテーブルの上のりんごを見て想像をふくらませていくお話「りんごかもしれない」(ヨシタケシンスケ作、ブロンズ新社)。子どもたちはじっと絵本を見つ

め、時には笑い声を上げながらお話の世界にのめり込んでいきます。夢中になって聞き入る子どもたちの姿は別のところにも。

同じ日、三松中学校で始まった読みきかせ。8時から8時15分まで、読みきかせ団体「三松中学校読み聞かせの会」のメンバーに学校の先生も加わって、1年生から3年生までの全12クラスで読みきかせが行われました。

保護者や地域住民など 200人以上が参加

市内の小・中学校全21校で、月に1〜2回程度、朝の時間に行われている読みきかせ。

各学校での読みきかせを支えているのは、保護者や地域ボランティアでつくる読みきかせ団体です。市内各地に15の団体があり、200人以上の人が参加しています。

また、朝の読みきかせに加えて、クリスマスや卒業などにあわせたイベントや鑑賞教室などで、大型紙芝居や朗読劇を行うなど幅広く活動している団体もあります。

卒業を前にした6年生が 1年生に絵本を読みきかせ

3月6日、西小林小学校体育館。5つのグループに別れた6年生(現中学1年生)が、1年生(現2年生)に優しく語りかけます。

この日読みきかせした絵本は、野菜のおはなしや怪獣や動物が登場する物語、昔話など、6年生がそれぞれ1年生のために選んだ絵本です。

6年生は、事前に連絡協議会の講師から読みきかせの方法やコツを教わり、自宅でも練習。その成果もあって、1年生は熱心に聞き入っていました。

中学校の生徒が母校を訪問 小学1・2年生へ読みきかせ

西小林小学校では、普段は読みきかせ団体「ゆめいろ文庫」が朝の読みきかせを行いますが、年3回、西小林中学校の生徒も小学1・2年生に読みきかせを行っています。

10月22日は、立候補した2年生の吉田花鈴さん、小糸優奈さん、泊悠椰さん、下沖菜七さんの4人が母校を訪問。このうち1年生へ読みきかせを行った吉田さんと小糸さんは、「とりかえっこはっぴょうかい」(作 絵 森川かりん、汐文社)と「りゆうががあります」(作 ヨシタケシンスケ、P H P 研究所)をそれぞれ1年生に読みきかせしました。



小学2年生に読みきかせした
西小林中学校2年
下沖 菜七さん、泊 悠椰さん

「児童のお兄ちゃんや近所のお姉ちゃんなど、知っている人が読みきかせに来てくれると子どもたちもうれしいみたいです」と小学1年生担任の尾辻礼子先生。
小学生にとって、大人よりもさらに身近な存在が読みきかせをしてくれる、特別な一日になりました。
同じ日には、幸ヶ丘小学校でも全校児童に向け、西小林中学校の2年生がオンラインで読みきかせを行いました。

